様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：１４４０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０２１８１

研究課題名（和文）実験と伝統―明治・大正期の宗教と心理体験―

研究課題名（英文）Experience and its expression on Religion in the Meiji and Taisho era

研究代表者
岩田　文昭（IWATA, Fumiaki）

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：００２６３３５１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、明治・大正期における「実験」とよばれる宗教体験の表現のあり方に着目し、日本の近代化の中で起こった宗教運動の特徴に新たな光をあてることを目指したものである。その目的は、特定の個人・宗派・宗教と、それらを越えた時代精神との関係を解明することにある。この目的に即して、①近角常観、綱島梁川、西田天香の「実験」とその物語化の探求を進めた。②近代の真宗関係者の中で、清沢満之と暁烏敏の宗教体験の検証をおこなった。③近代仏教と精神療法との関係について、忽滑谷快天と鈴木大拙を中心に解明を試みた。④元良勇次郎の近代的心理学の実験と禅仏教との関係について調査をした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来の宗教研究は特定の宗派や中心に研究を進めることが多かった。それに対して、本研究は、特定の宗教や団体を越えた、時代の精神潮流を「実験」を主題として、探求することを試みた。西洋文明、とりわけ実証的な実験心理学が導入されつつあった、明治大正期に、様々な宗教家、思想家が自らの体験を「実験」として語った。その語り方を探求することで、日本の宗教的伝統が西洋文明との出会いの中で、再編成されるあり方が示され、時代精神の特徴を浮き彫りにすることができた。

研究成果の概要（英文）：This study projects new lights on some characteristics in religious movements during modernization in Japan by focusing on descriptions of “jikken”, particular religious experiences in the Meiji and Taisho era. This reveals relationship between the spirits of the period and specific individuals, sects and religions.
The procedures are : ①surveying “jikken” and narratives of three representatives; CHIKAZUMI Jokan, TSUNASHIMA Ryosen, NHISHIDA Tenko, ②investigating religious experiences of KIYOZAWA Manshi and AKEGARASU Haya as representatives of modern Shin Buddhism, ③examining the relationship between psychotherapy and modern Buddhism in NUKARIYA Kaiten and SUZUKI Daisetsu, ④ carrying out researches into the relationship between Zen Buddhism and modern psychological experiments by MOTORA Yujiro.

研究分野：宗教学

キーワード：近代仏教　浄土教　回心　近角常観　綱島梁川　鈴木大拙　ウイリアム・ジェイムズ　物語化

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

宗教の歴史において必ずしも、個人の「体験」が常に強調されてきたわけではなかった。もちろん古今東西の至るところで、神秘的経験は存在しており、それを宗教の核心と考える研究者も少なくない。しかし、宗教史を広く眺めれば、個人の体験よりも、制度・儀式・慣例・教義・伝統などに重点が置かれることが主流であった。体験の持つ意義は、近代にはいり、とりわけ宗教学の成立と相まってその意義が増していったといえる。このことは、日本では、さまざま宗教者とその周辺において「実験」という言葉が流布したことに典型的に表われる。自らに実際におこった体験を意味する、「実験」を、本研究は、主題概念として、それを用いた宗教者と宗教伝統との関係を探求し、近代の日本の宗教の特徴の一端を解明しようとしたのが本研究の背景である。

２．研究の目的

本研究は、明治・大正期における「実験」とよばれる宗教体験の表現のあり方に着目し、日本の近代化の中で起こった宗教運動の特徴に新たな光をあてることを目指す。本研究の目的は、特定の個人・宗派・宗教と、それを越えた時代精神との関係を解明することにあるが、とくに近代の学問状況との関わりに焦点をあわせることに本研究の特徴がある。

３．研究の方法

実験という言葉で自己の宗教体験について語った宗教者は、清澤満之、近角常観、金子大栄、綱島梁川、内村鑑三、海老名弾正など数多い。かれらの言述をめぐる議論を整理・分析することで、近代日本の宗教を横断する一面が浮き彫りになることは間違いない。しかしながら、多様な宗教家の特徴を捉え、近代日本の宗教をめぐる時代精神を捉えるのには、それに加えた工夫がいる。本研究が着目するのは、大学における学問としての心理学と哲学の生成過程と宗教家の表現との関係である。心理学と哲学における研究状況との関係を焦点化することで、近代日本の宗教家のあり方を立体的に捉えることを試みる。このことを具体化する方法として、以下のような探求をする。

①近角常観、綱島梁川、西田天香の「実験」とその物語化の探求する

②近代の真宗関係者の宗教体験の検証を、清沢満之と暁烏敏を中心に行う。

③近代仏教と精神療法との関係について、忽滑谷快天と鈴木大拙を中心に解明を試みる。

④元良勇次郎の近代的心理学の実験と禅仏教との関係について調査をする。

４．研究成果

岩田文昭は近角常観の研究を中心に、綱島梁川と西田天香との関係について探求をした。近角常観の実験はその説教録『懺悔録』によって、人口に膾炙するようになった。しかし、求道会館に残されたノート「常観録」を検討することによって、その実験の物語化の過程を明らかにすることができた。また、この物語化の過程は、常観と同時代の西田天香にも類似するものが認められることを指摘した。常観と天香の物語化の過程を考察することで、実験の物語化において、当人の実験の前提となっている宗教的伝統の内容が重要な役割を果たしていることを明らかにした。そして、この実験とその物語化における宗教的伝統の役割を、綱島梁川の「見神の実験」を検討することでさらに明確にした。これらの研究は、日本宗教学会第75回学術大会でパネル「明治期における宗教体験の語りとその伝播」で発表をし、論文「浄土教における回心とその物語―近角常観・綱島梁川・西田天香―」としてまとめた。

この研究成果により、岩田は、伝統的な宗教体験とその物語化に関する視点を獲ることができ

た。その成果は今後、法然の三昧法得の体験と『選択本願念仏集』や法然伝の関係の考察として、発表する予定である。なお、求道会館所蔵の書簡のうち、久保猪之吉発の書簡の内容分析が進み、猪之吉の短歌「『ベルリン』の友を臆ふ」の背景に常観が存在していたことが解明された。この解明は、福岡市総合図書館文学・文書課の神谷優子特別資料専門員に岩田が資料を提供することで可能になった。

これに加え、岩田は、東大の心理学講座の初代教授、元良勇次郎の著作・論文の読解、ならびにその研究書の調査を進め、元良勇次郎の近代的心理学の実験と鈴木大拙などの禅仏教との関係の探求を深めた。この成果は、『近代日本宗教史　第二巻　国家と信仰』（春秋社刊行予定）掲載予定の論文で公刊することになっている。

碧海寿宏は、清沢満之と暁烏敏を事例にして研究を進めた。清沢満之に関しては、特に彼の青年期からの哲学研究が、その後の宗教者としての活動や、内面的な信仰をめぐる理解にどう影響したのかを考察し、清沢が開示した宗教体験の意義を、新たな角度から明らかにした。その成果は、論文「近代仏教のなかの清沢満之と哲学」で示した。また、暁烏敏については、彼の伝統から自由な宗教体験の語りが、その教養主義的な読書経験から導かれたものという仮説のもと、「近代仏教と読書文化」という観点から、歴史的な検証を行った。その成果は、英語論文として“Modern Buddhism and Reading Culture: The Case of Akegarasu Haya”でまとめた。さらに、これら真宗関係者の宗教思想や体験についての研究成果を社会還元するために、一般書として『入門 近代仏教思想』を執筆・刊行した。他方、碧海も元良の探求をすすめた。元良の宗教心理への接近は、弟子の福来友吉にも共有され、後者はやがて禅そして密教の宗教体験へと著しく接近していく、その関心や傾倒についての検討をおこなった。

吉永進一は、実験という視点で、従来見過ごされていた仏教と精神療法の関係を掘り起こした。アメリカにおいては、宗教経験による護教言説という伝統キリスト教の脱構築と、精神療法の普及によるキリスト教の解体という、心理学を軸にする動きが19世紀末から20世紀初頭のアメリカ宗教の風景を構成していたが、日本宗教でも実験という言葉の中に、伝統仏教の再生という方向と解体という方向を確認することができる。実験への新たな価値づけは同時に科学的世界観と対立しない新たな用語による語りを生み出す。「宇宙の大霊」という用語による経験の語りは、山崎弁栄のような浄土教系仏教者だけでなく忽滑谷快天のような禅宗僧侶などに広まっている。これはさらに、桑原俊郎のような精神療法運動の核となる言葉でもある。本研究では、忽滑谷快天だけでなく仏教の「宇宙の大霊」言説について雑誌などの一次資料を中心に研究調査を行い、こうした大きな近代宗教の流れに位置づけることができる見通しをえることができた。また桑原の信奉者が明治39年より創刊した精神療法雑誌『心の友』は悉皆調査することができ、精神主義の清澤満之の信奉者と会員が重なっていること、綱島梁川、近角常観、忽滑谷快天、中嶌観琇などの実験につながる宗教者の投稿が多く、超宗教的な求道者の拠点となっていることが明らかになった。なお、仏教と催眠術については2019年6月1日の近代仏教史研究会で発表した。

平成30年度のみ研究分担者として参加した、末村正代は、鈴木大拙の思想形成過程に関する研究の一環として、ウィリアム・ジェイムズとの関係に着目して研究を進めた。平成30年度において、書簡等の資料から鈴木の関心の所在がポール・ケイラスからジェイムズへと変遷する様相を確認したうえで、ジェイムズの主著『宗教的経験の諸相』に見られる回心論と鈴木の宗教経験論を比較検討し、その成果を学会発表で報告した。また鈴木が創設した松ヶ岡文庫の調査も継続的におこない、未整理資料の調査にあたった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　６　件）

①岩田文昭、「浄土教における回心とその物語　―近角常観・綱島梁川・西田天香―」、『大阪教育大学紀要　第Ⅰ部門　人文科学』、査読無、第 67 巻、2019、57-72

http://ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/dspace/handle/123456789/31033

②吉永進一、「アディロンダックの一夜：『宗教的経験の諸相』背後の２，３の物語」、『舞鶴工業高等専門学校紀要』、査読無、第 54 号、2019、79-88

③吉永進一、「神智学と仏教、マクガヴァンとその周辺」、『現代思想』、査読無、46 巻 10 号、2018、405-421

④碧海寿広、「近代仏教のなかの清沢満之と哲学」、『現代と親鸞』、査読無、37 号、2018、268-254

⑤ŌMI Toshihiro “Modern Buddhism and Reading Culture: The Case of Akegarasu Haya,” Japanese Religion, vol41, Nos.1&2, 査読有、2017、43-51

⑥碧海寿広、「近代仏教と神道」、『現代思想』、査読無、45 巻 2 号、2016、282-289

〔学会発表〕（計　６　件）

①末村正代、「経験にもとづく宗教理解――ウィリアム・ジェイムズと鈴木大拙」、関西大学東西学術研究所 2018 年度第 3 回研究例会、2018

②末村正代、「鈴木大拙における「経験」の射程――W．ジェイムズ『宗教的経験の諸相』との関わり」、関西大学哲学会 2018 年度春季大会、2018

③岩田文昭、「満之と常観――その時代と思想」、第 16 回「仏教と近代」研究会、2018

④岩田文昭、「近代家族観と日本人論－近角常観における「伝統」の再編成」、日本倫理学会第 68 回大会、2017

⑤岩田文昭、「近角常観における伝統の再編成―布教方法と家族観形成を中心に―」、第１４回幕末明治研究会、2017

⑥岩田文昭、「近角常観の実験とその物語」、日本宗教学会第 75 回学術大会、2016

〔図書〕（計　３　件）

①碧海寿広、中央公論新社、『仏像と日本人―宗教と美の近現代』、2018、総 255 頁

②永尾雄二郎・クリストファー・ハーディング・生田孝・岩田文昭、金剛出版、『続―仏教精神分析　フロイトの心、親鸞の心』、2018、183-209 頁

③碧海寿広、筑摩書房、『入門 近代仏教思想』、2016、総 282 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

http://chikazumi.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/

６．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：碧海寿広

ローマ字氏名：ŌMI Toshihiro

所属研究機関名：東洋大学

部局名：東洋学研究所
職名：客員研究員
研究者番号（8 桁）：80710813

研究分担者氏名：吉永進一
ローマ字氏名：YOSHINAGA Shinichi
所属研究機関名：舞鶴工業高等専門学校
部局名：人文科学部門
職名：教授
研究者番号（8 桁）：90271600

研究分担者氏名：末村正代
ローマ字氏名：SUEMURA Masayo
所属研究機関名：関西大学
部局名：東西学術研究所
職名：非常勤研究員
研究者番号（8 桁）：60809664

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。